

3. 高校生の社会意識および生き方（設問41～50）

①社会問題への不安（設問41）

さまざまな社会問題について、現代の高校生はどのように感じているのだろうか。不安に感じることはどのようなことかという質問でその傾向を探った。

「環境問題」について不安に感じると答えた割合が最も高かった(51.5%)。次いで「国際関係・戦争」については約四分の一が不安に感じている(26.2%)。そして「資源・エネルギー」(21.7%)、「非行・犯罪」(18.7%)、「社会の高齢化」(15.8%)、「日本の政治」(15.7%)、「日本の経済」(10.1%)と続いている。環境問題についての関心が高いことが特徴的である。

この質問については、ほぼ同様の質問を昭和62～63年の全倫研調査でも実施しており、参考までにその時の結果を示すと、「環境問題」(42.5%)、「戦争の危機」(35.1%)、「高齢化社会」(25.5%)、「石油・エネルギーの危機」(17.4%)、「日本経済の先行き」(15.8%)、「政治の混乱」(15.2%)、「食糧問題」(13.9%)、「非行犯罪」(10.9%)と続いていた。

これらを比較すると、前回調査に比べ「環境問題」・「非行・犯罪」がともに約8ポイント上昇し、また「国際関係・戦争」・「高齢化」がともに約10ポイント低下している。

なお男女別では、「環境問題」について、男子46.2%に対し女子55.7%と、女子が不安に思うと答える割合が高かった。

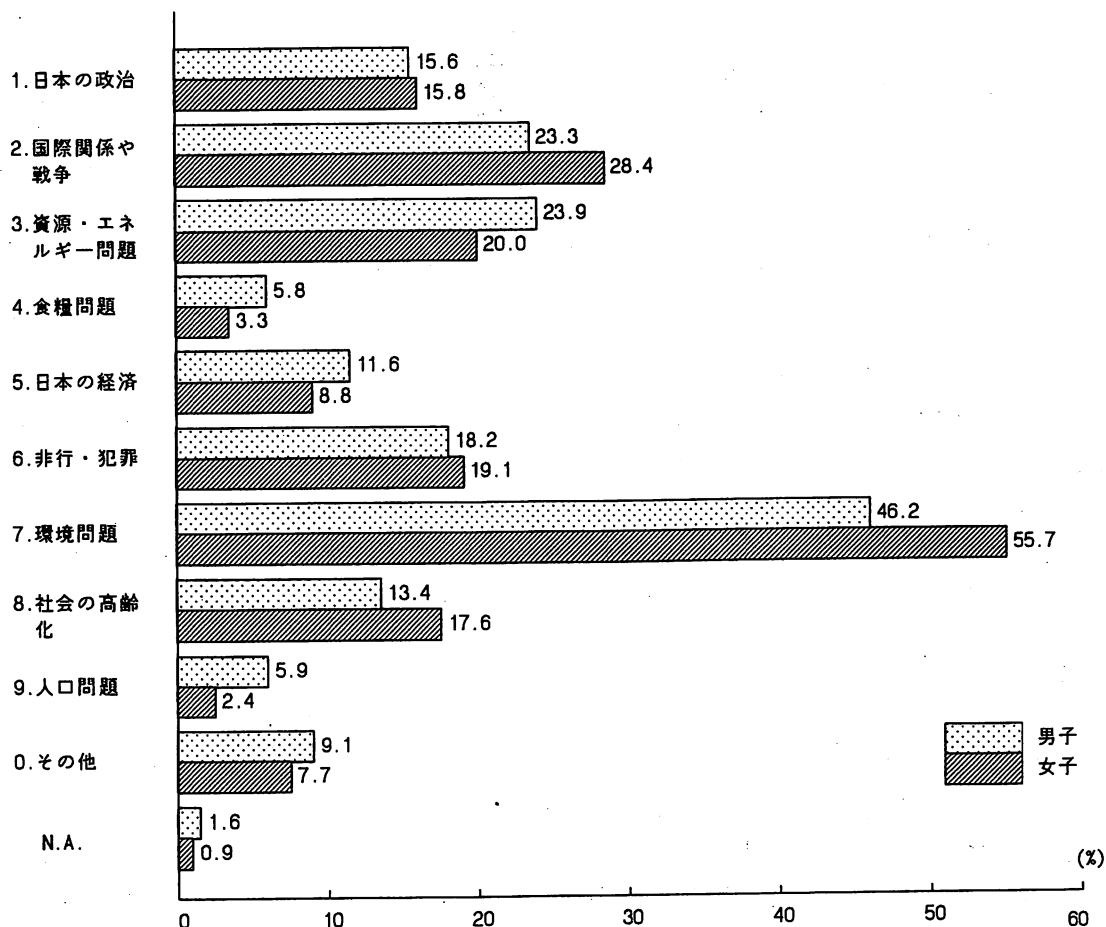


図 3-19 あなたは、これからの社会について、どんなことに不安を感じますか。（2つまで）（設問 41）

②理想とする暮らし方（設問42）

「なごやかな家庭生活を築く」(40.5%)がもっとも多く、次いで「自分の好きなように暮らす」(27.3%)、「職業を通して自己を表現する」(13.4%)、「経済的に豊かになる」(11.0%)、「社会のために尽くす」(3.0%)、「社会的な地位を得る」(2.6%)と続く。

男女別に見ると「なごやかな家庭生活を築く」では女子44.9%に対し男子35.1%、「自分の好きなように暮らす」では男子32.6%に対し女子23.1%である。「職業を通して自己を表現する」については男子11.3%に対し女子15.2%と、女子の方が職業生活に対して積極的な傾向が見られる。

また昭和62~63年の全倫研調査では「なごやかな家庭生活を築く」36.2%、「自分の好きなように暮らす」27.7%、「職業を通して自己を表現する」17.2%、「経済的に豊かになる」12.7%、「社会的な地位を得る」2.5%、「社会のために尽くす」2.5%ということであり、前回に比べて今回の調査では、家庭生活重視のポイントが若干上昇し、職業生活重視のポイントが若干低下しているが、全体として「家庭生活」→「非拘束的生活」→「職業生活」→「経済的豊かさ志向」という順の変化は見られなかった。

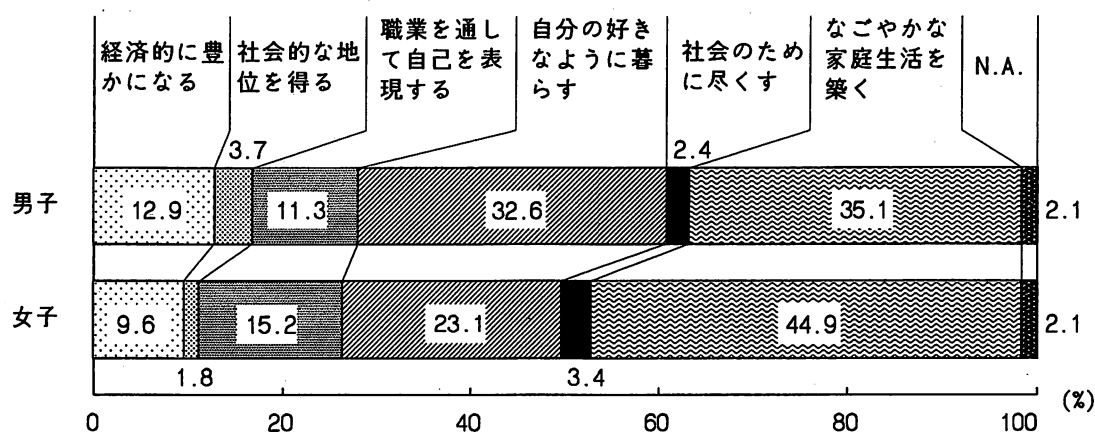


図 3-20 人の暮らし方についていろいろな考えがあります。あなたの考えにもっとも近いものは、次のうちではどれですか。（設問 42）

③家事分担について（設問43）

家庭生活に関連して、家事の分担について質問した。全体では「職業も家事・育児も、配偶者との間で公平に分担したい」がもっとも多かった(48.2%)。

男女別に見ると、男子は「職業重点」(43.5%)→「公平分担」(43.4%)→「職業専念」(10.3%)、女子は「公平分担」(52.0%)→「家事・育児重点」(33.9%)→「家事・育児専念」(10.7%)と続く。「公平分担」について男子と女子との間で約9ポイントのギャップがあることが確認できる。

④夫婦別姓について（設問44）

全体では「同姓がよい（同姓）」(44.8%)と「同姓を原則として、別姓も認めるようにした方がよい（同姓原則）」(44.6%)がほぼ同じ割合であり、「別姓を原則として同姓も認めるようにした方がよい（別姓原則）」(7.0%)、「別姓がよい（別姓）」(2.9%)と続く。

男女別に見ると、男子は「同姓」(50.1%)→「同姓原則」(41.5%)→「別姓原則」(5.4%)→「別姓」(2.2%)であり、女子は「同姓原則」(47.2%)→「同姓」(40.5%)→「別姓原則」(8.2%)→「別姓」(3.5%)であり、順序が入れ替わる。また「同姓」および「同姓原則」の合計と、「別姓」および「別姓原則」の合計で比較すると、男子はそれぞれ91.6%・9.7%、女子は87.7%・11.7%となっている。前問同様に、この設問でも男女間のギャップが認められる。

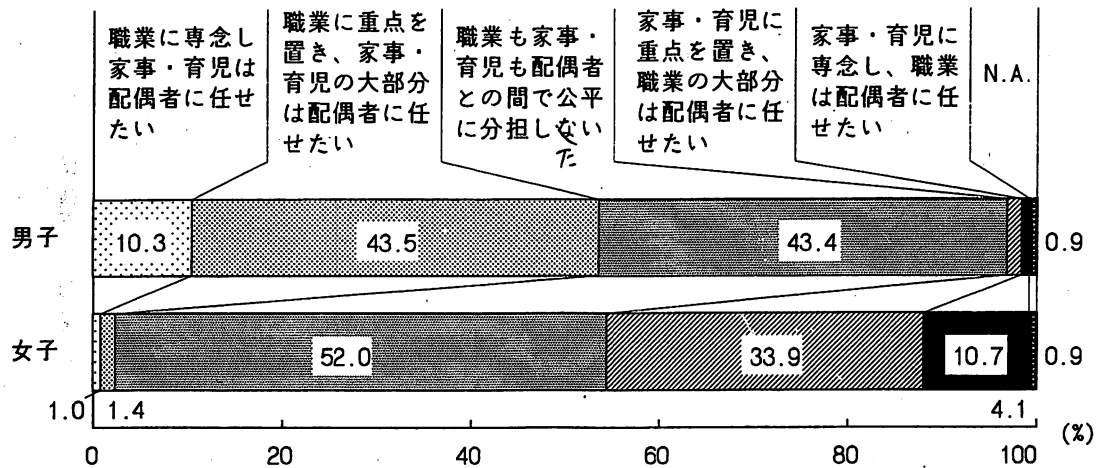


図 3-21 あなたは将来、結婚するとしたら、配偶者（夫・妻）とどのように職業や家事・育児を分担したいと思いますか。（設問 43）

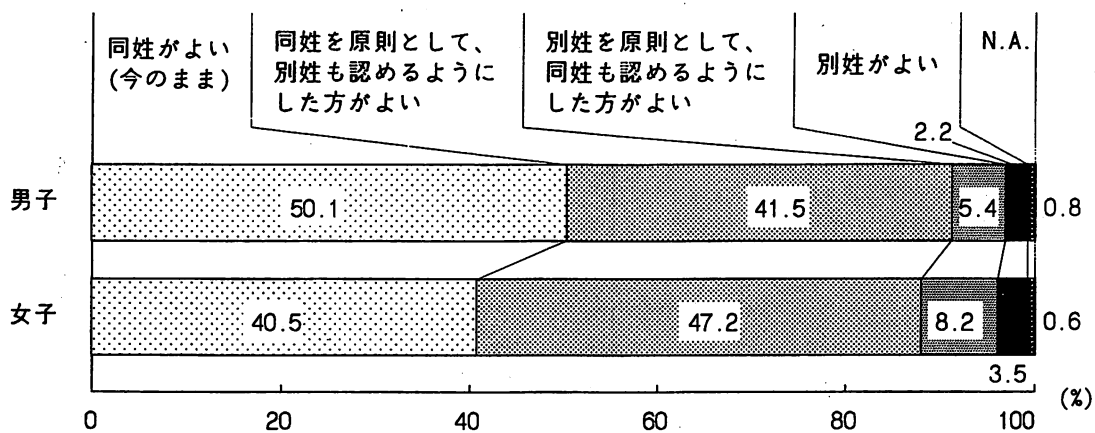


図 3-22 日本の現在の民法では、「夫婦同姓」といって、夫婦は夫または妻の姓を名乗ることになっています。あなたは、このことについてどう思いますか。（設問 44）

⑤環境問題（設問45）

ジレンマを含んだ質問であるが、「環境破壊を現状より進めないためには物不足・物価や税金の上昇・サービスの低下など不便や負担が生じてもやむを得ない」という不便・負担の容認の意見が全体の約四分之三(76.5%)を占めている。

⑥福祉問題（設問46）

前問と同様ジレンマを含んだ質問であるが、この点についても、「国民が受ける社会保障や福祉の充実のためには、個人の負担がふえてもやむを得ない」という、個人負担増を容認する意見が多くなっている(64.0%)。なお男女別では容認が男子59.7%に対して女子67.4%と多い。

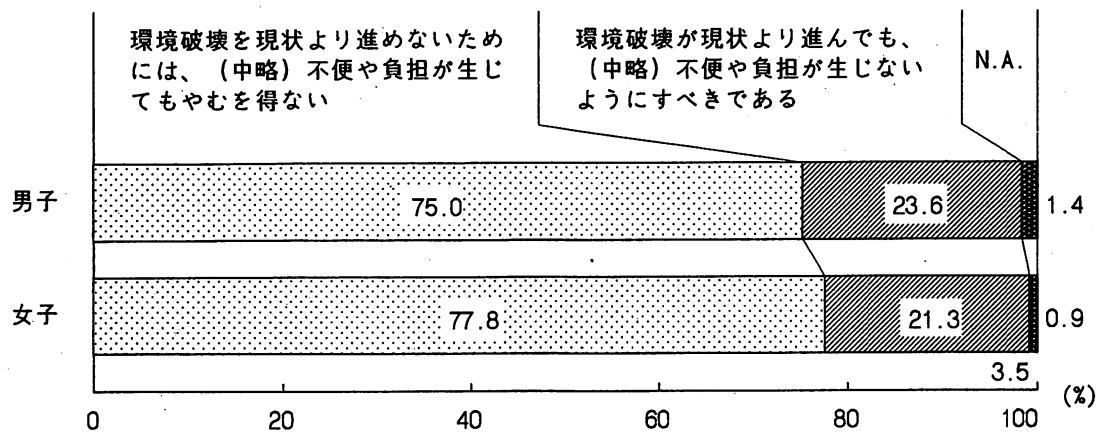


図 3-23 最近、地球規模の環境問題として、地球温暖化、オゾン層の破壊、熱帯林の減少、砂漠化、酸性雨などが注目されていますが、環境の保全と経済との調和に関して、あなたは次の二つの意見のうちではどちらに賛成しますか。(設問 45)

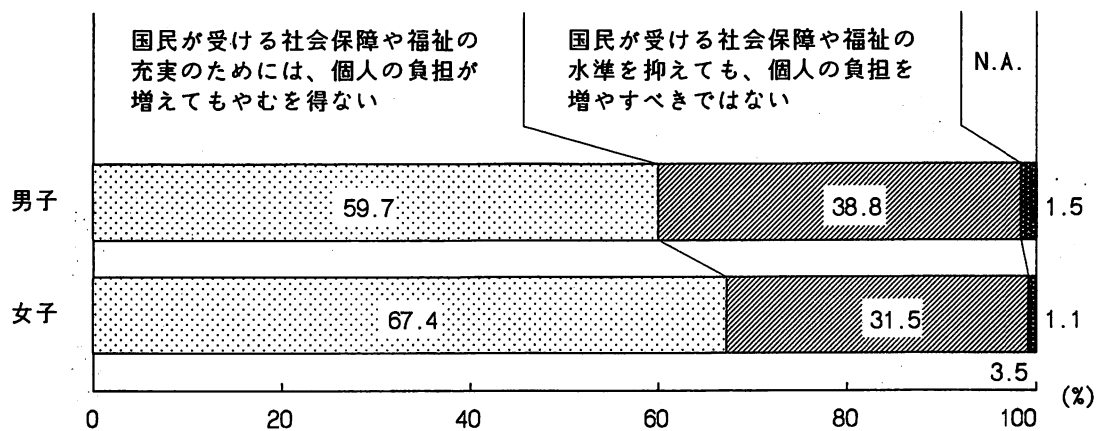


図 3-24 日本では社会の高齢化が進みつつありますが、高齢人口が増えると、働く人たちが負担する年金の保険料や税金が高くなると言われています。福祉の充実とそのため負担について、あなたは次の二つの意見のうちではどちらに賛成しますか。(設問 46)

⑦情報化に期待すること(設問47)

情報化社会に期待することとして、「豊かさ・便利」(50.8%)、「自由・ゆとり」(41.1%)、「コミュニケーションの拡大」(35.8%)、「知識・教養」(27.7%)、「情報の公平」(22.4%)が続いている。

⑧情報化に対する不安(設問48)

情報化に対して不安に思うこととしては、「プライバシーの侵害」(57.4%)、「情報犯罪」(41.5%)、「情報の氾濫」(41.2%)の、3つの項目に対する不安が高い。

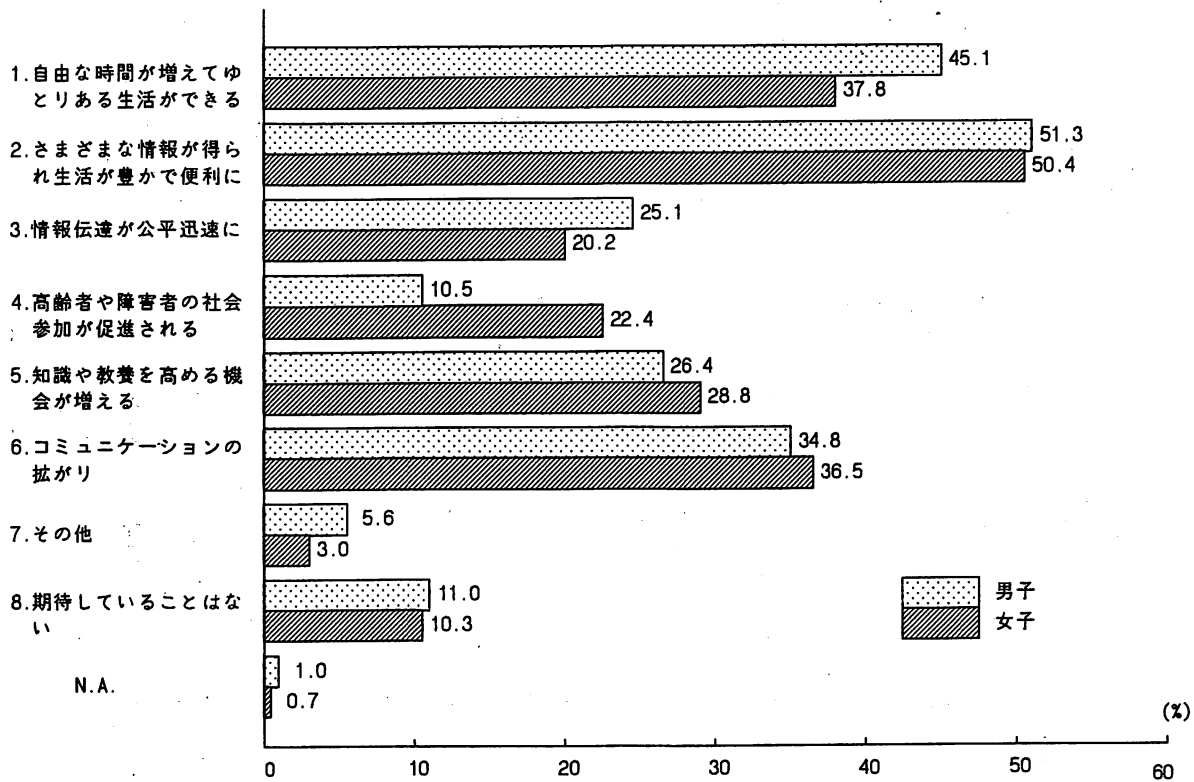


図 3-25 最近、「情報化社会」という言葉がよく使われますが、あなたが情報化社会に期待するのはどんなことですか。(3つまで) (設問 47)

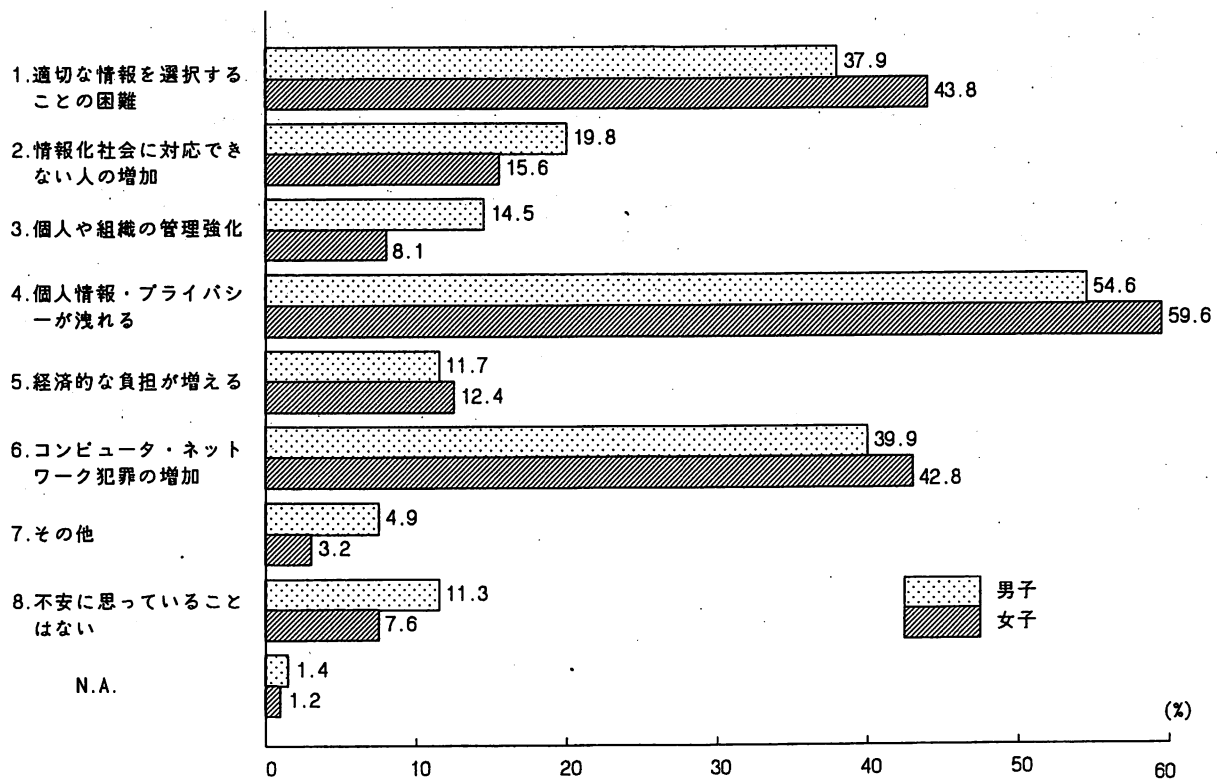


図 3-26 情報化の進展について、あなたが不安に思っていることはどんなことですか。(3つまで) (設問 48)

⑨外国人との接触（設問49）

言葉の通じない外国人に尋ねられたときの態度を問う質問である。「何とか教えようとする」が80.0%と高い割合になっている。男女別では女子82.0%、男子77.5%と、女子の方が高い割合を示している。

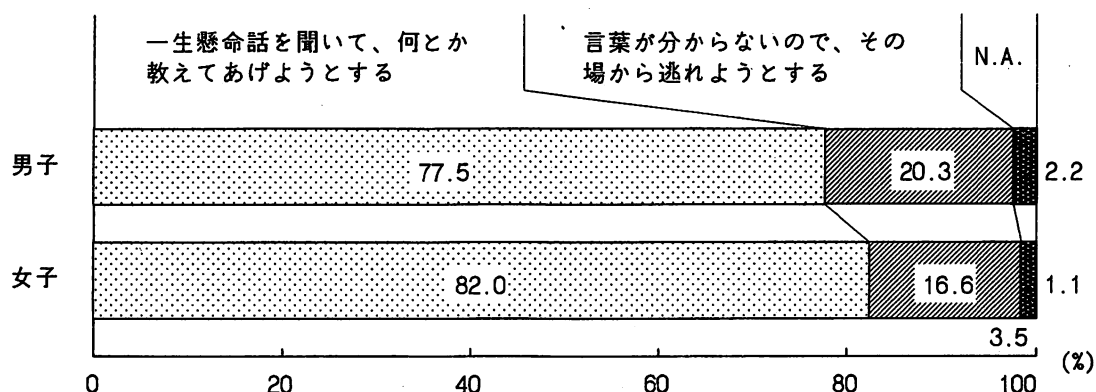


図 3-27 あなたは、日本語の通じない外国の人に道を尋ねられたら、どうしますか。（設問 49）

⑩学校と国際化（設問50）

国際化の進展に関連して学校で推進してほしいこととしては、次のような結果となった。

「外国の生徒たちと交流する機会を増やす」(44.8%)、「スポーツ・文化・芸術などの交流を増やす」(33.8%)、「外国への修学旅行を実施する」(33.4%)、「外国からの留学生の受け入れを増やす」(22.4%)、「英語以外の外国語も学べるようにする」(22.1%)等が高い割合を示している。

男女別に見ると、項目によって男女間の意識の相違がかなりあることも示されている。具体的には「外国の生徒たちとの交流を増やす」では女子52.8%に対して男子34.7%、「留学生の受け入れ」では女子25.7%に対して男子18.2%、「留学」は女子22.1%に対して男子13.3%となっている。男子が高い割合を示しているのは「スポーツ・文化・芸術などの交流を増やす」で男子42.0%、女子27.3%となっている。

前問同様、女子の方が男子よりも、特に直接の人的接触という点で、国際化を身近にとらえ、積極的であるといえよう。

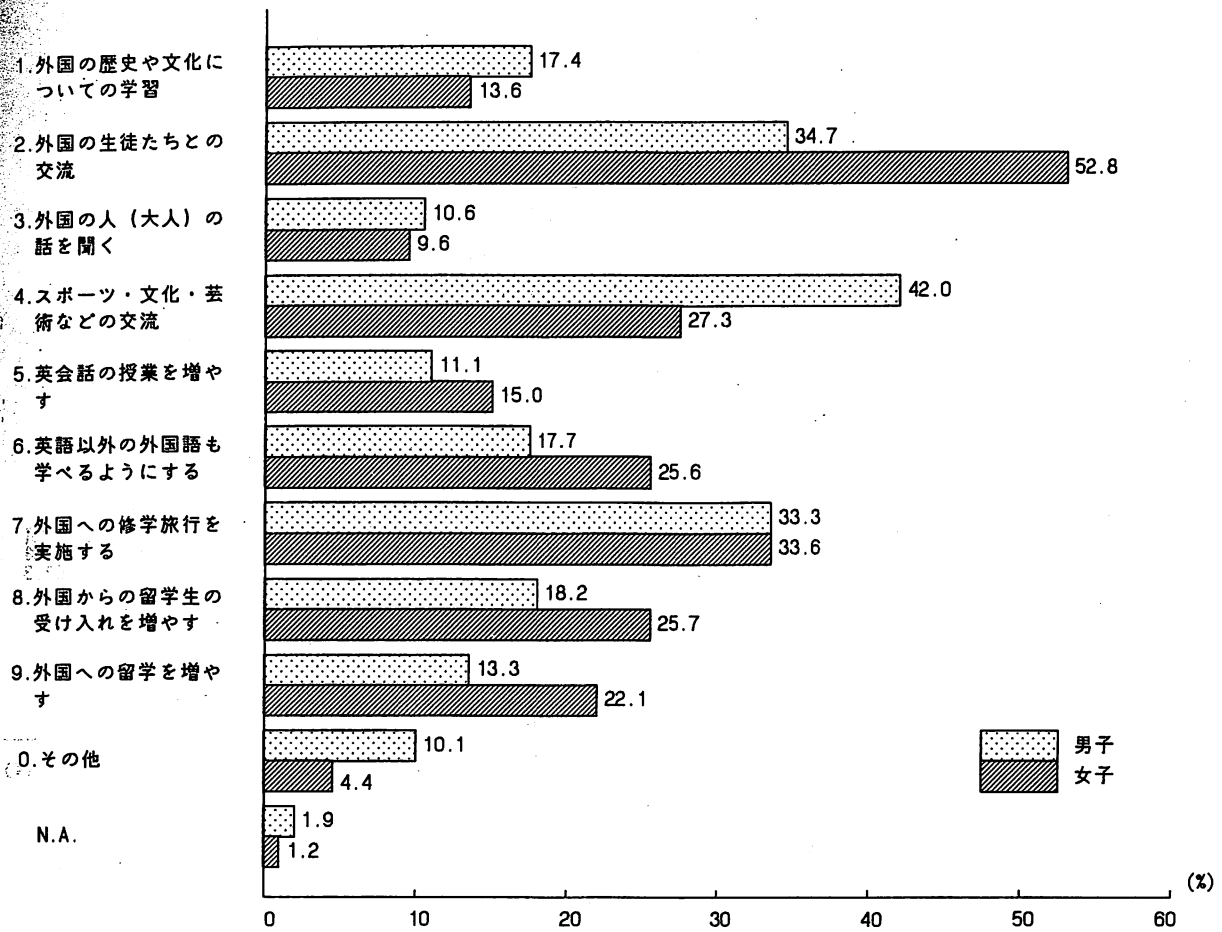


図 3-28 国際化の進展が言われるようになってきましたが、あなたがこれから学校でしてほしいと思っていることには、どんなことがありますか。(3つまで)
(設問 50)

4. 高校生と公民科 (設問51・52)

①公民科の授業方法 (設問51)

公民科の好ましい授業方法について3つまで選んでもらった。

「視聴覚・情報機器」、「講義」、「ディベート」が上位を占めた。

「視聴覚・情報機器」は女子が、「講義形式」は男子が特に好んでいる。講義形式は受験を控えた3年が選択し、視聴覚・情報機器、ディベートは1, 2年時に多いと予想したが、この3つの傾向には学年差は認められない。また、経験・未経験の区別、既知か否かはわからない。

「問題演習」については1年時に選択する者があるが、進級と共に好まなくなる。特に、2-3年時に急速に減少する。

「作業学習」についても、高学年になるほど選択されない。

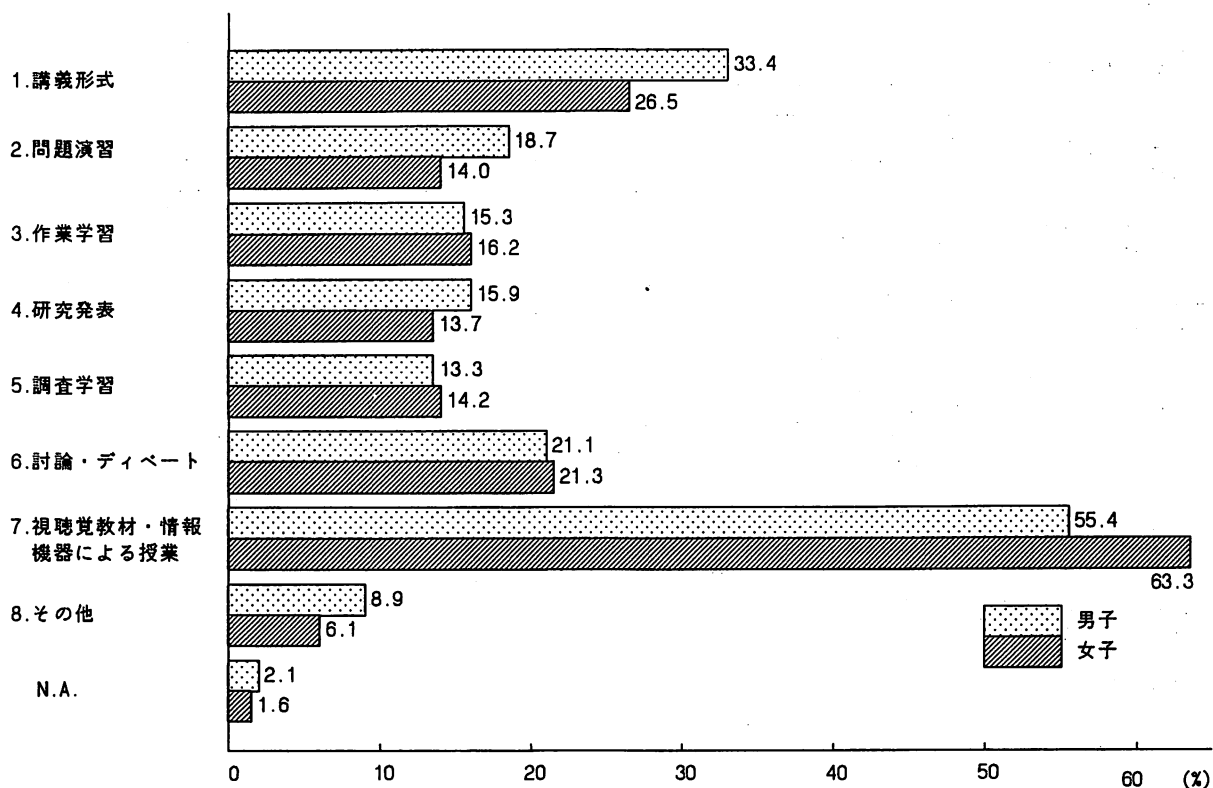


図 3-29 あなたは、公民科（「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」）の授業で、どんな方法の授業をもっとしてほしい（ほしかった）と思いますか。（3つまで）（設問 51）

②公民科の授業内容（設問52）

公民科で学びたい内容を3つまで選んでもらった。

「環境・人口・資源エネルギー」、「世界の文化」が多く、「青年期の心理」と続いた。但し、この設問は教科書の単元ごとに設定したため、例えば「環境・人口・資源エネルギー」のうちどの分野にポイントがあるのかは、この設問だけでは明らかではない（設問41等からは特に環境問題への関心がうかがえる）。他にも日本の政治・経済は2分割にしたが、国際政治・経済は1つにまとまっているので、単純比較が難しい、既に学習したか否かが明らかでない、などの問題はある（なお調査段階では各協力校にカリキュラムをお知らせいただいたが、調査結果に反映させられるほどのデータにならなかった）。また、文化や思想という言葉のイメージも漠然としている等々、難しいところがある。

そこで、ポイントを考えてみると、

(1) 予想に反し、青年期の心理がトップを占めていない

(2) 日本文化・世界文化とも、学年傾向では1年が多く選んでいる。また、日本と世界を比較した場合、文化、思想とも世界を選ぶ傾向があり、世界文化は特に女子に好まれる。

(3) 情報化・国際化・高齢化については、高学年ほど選択する傾向があり、男女比較では女子が多い（設問41でも高齢化問題には女子が不安をもっている）

等が挙げられる。

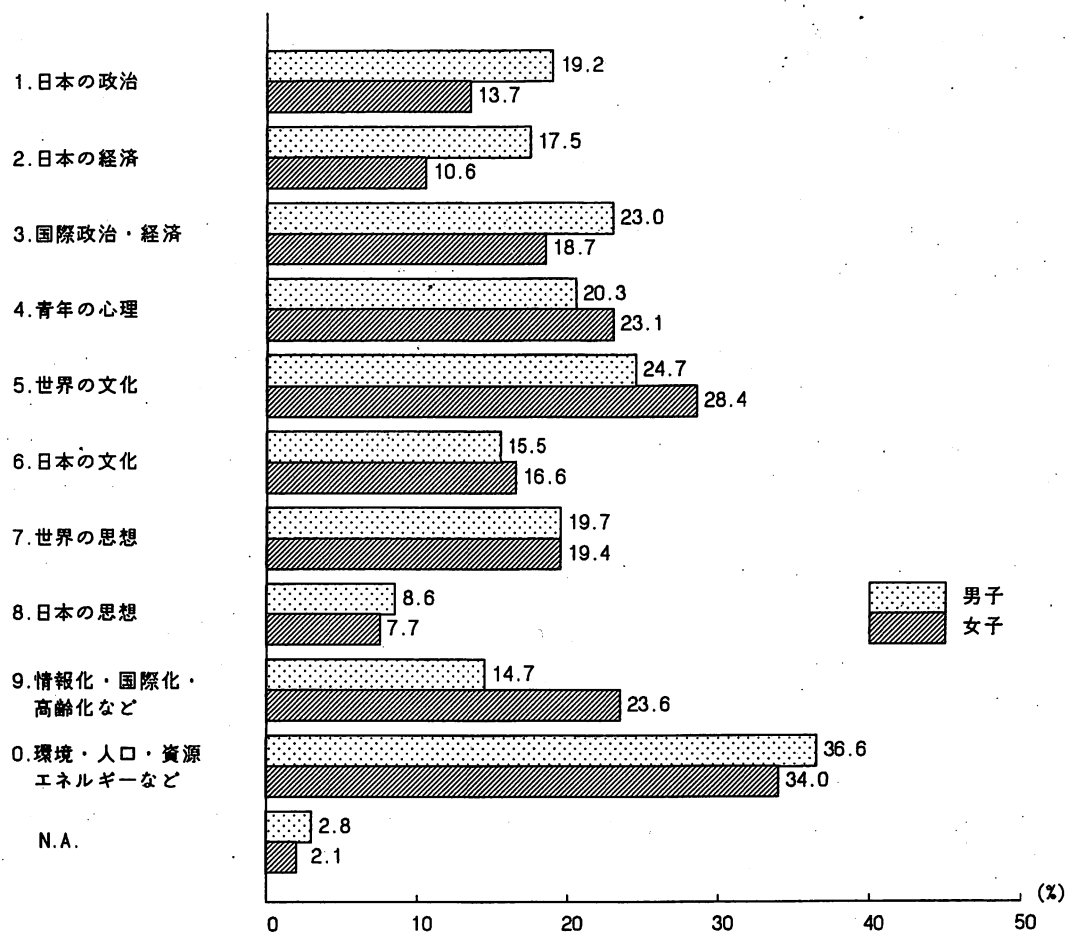


図 3-30 あなたは、公民科（「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」）の授業で、次のどんな内容について深く学びたい（学びたかった）と思いますか。（3つまで）（設問 52）